

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570300446		
法人名	社会福祉法人 青藍会		
事業所名	ハートホーム宮野グループホーム		
所在地	山口県山口市宮野下2997-5		
自己評価作成日	平成27年7月21日	評価結果市町受理日	平成28年3月30日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

偶数月に、地域包括の地区担当の方、自治会長、民生委員、福祉委員、地域の方、ご家族様、入居者代表の方と運営推進会議を実施し、意見交換や提案の場としています。毎月、カンファレンスを実施し状況報告書や写真付きの手紙、グループホーム便りをご家族様宛てに近況報告を兼ねてお送りしています。室内での生活が主となってしまう為、季節感を味わっていただき、また気分転換を兼ねて外出訓練の一環として、ひと月に1度の外出行事を実施し地域との交流の機会を設けています。訪問看護との24時間体制での連携を含めた、医療機関との連携により緊急時にも早期に対応の出来る体制を整えています。共用型デイサービスの開始により、入居者様とグループホーム外の方が交流を深め、お互いにとって良い刺激となりレクリエーション等を通じて脳活性に繋がるよう支援しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居時のアセスメント(私の基本情報12項目、特徴、病歴、生活歴、食事の好み、信仰、得意なこと苦手なこと、家族と本人の意向など)を活用されている他、日々の関わりの中での利用者の言葉や様子、表情を経過記録に記録されて、利用者の思いをくみ取り、一人ひとりが今までの生活を継続できるように、職員全員が利用者の思いや意向の把握に努め支援しておられます。事業所の夏祭りを開催され、魚釣りやヨーヨーなどを家族や地域の人と楽しまれ、交流しておられます。馴染みの場所や自宅周辺へのドライブ、市内の散歩、家族の協力を得ての外出や外食など、馴染みの人や場所との関わりが途切れないように支援に努めておられます。外部研修への参加の機会の確保や月1回の内部研修の実施など、職員の研修の機会を充実され、利用者一人ひとりの思いに添った支援が出来るように取り組んでおられます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年8月13日		

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念をホールに掲示し、毎朝の朝礼時に唱和し意識の統一を図る。職員間での話し合いで理念を構築し事業所内に掲示している。職務に就く前に全員で唱和し、実践に繋げるよう努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示している。朝礼時に唱和し、日常業務の中で理念を確認して共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではないが、地域の祭りに作品展示という形で参加し、皆様に見ていただくことでの交流を図る。毎年、地域交流センターの祭りにご利用様の作品を展示し、2、3名の方が見学に行っている。毎月、演奏会等のボランティアの来訪があり、参加の機会を設けている。	地域の夏祭りに利用者の作品を出展し、地域の人達と交流している。法人拠点施設に来訪しているボランティア(尺八、大正琴、アコーディオン演奏、腹話術など)との交流や事業所へ来訪しているボランティア(お話、習字)との交流の他、定期的に行っているハートカフェに参加して交流している。今年度初めての事業所の夏祭りに地域の人や家族の参加があり交流している。散歩時や買い物時に、地域の人と挨拶を交わすなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、法人主催の成果発表会の実施や、毎月実施のはあとカフェを活用し地域の方々に日常の取り組みを紹介したり、話し合いの場を設けている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	毎月のミーティングや勉強会にて、自己評価・外部評価を取り上げ、話し合いを実施し取り組んでいる。各職員に自己評価・実践状況の記入を依頼することで、関わりを持ち意義の理解に繋げようとしている。	管理者が評価の意義について説明し、全職員で自己評価をするための書類に記入し、話し合いながら管理者がまとめている。前回の評価結果を受けて、外部研修の参加の機会の確保や内部研修の充実についてなど、できるところから改善に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の意義の理解</li> <li>・評価を活かす取り組み</li> </ul>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、入居者様の代表・ご家族様・自治会長・民生委員・福祉委員・ボランティア講師・地域の方・地域包括支援センター地区担当者の参加のもと、意見交換しサービスの向上に取り組んでいる。2ヶ月に1度実施し、日々の活動内容や取り組みについて報告し提案をいただいている。参加者は少数でメンバーの拡大には至っていない。	会議は2ヶ月に1回開催し、日々の活動、現在の入居状況、ヒヤリハット、事故報告、防災訓練、外部評価結果等の報告をして話し合いをしている。意見をサービス向上に活かすまでには至っていない。	・地域メンバーの拡大 ・議事録の工夫 ・運営推進会議を活かす工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者を中心に市町担当者や、地域包括支援センター地区担当者と連携が取れている。地域包括支援センターとは、運営推進会議を通じて相談・助言を受けている。また、情報交換を行なっている。	市担当者とは介護保険の更新時に出向いたり、電話等で利用者の相談をして助言を得たり、情報交換しているなど協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは運営推進会議時に助言を得たり情報交換をするなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、委員会の実施と身体拘束に関する勉強会に参加し取り組んでいる。玄関の施錠については、3階ということもあり安全上の配慮から施錠している。身体拘束委員会に必ず職員1名が参加し、理解を深めると共に情報の共有に努めている。玄関は施錠している。外出を希望される方については、職員付き添いのもと、散歩を実施している。	月1回の法人の身体拘束委員会の勉強会に参加し、職員間で共有して抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、施錠することもあるが、外出したい利用者とは一緒に出かけているなど工夫している。スピーチロックについては管理者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1度、身体拘束委員会を開催し、年2回勉強会を実施している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、権利擁護に関する知識を学び、場合によっては居宅のケアマネから情報を収集し活用出来るように支援する。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には、契約書の内容・重要事項説明書の内容・個人情報使用同意書の内容を説明し、最後に質問の時間を設けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や相談を受けた場合は報告書を作成し、ミーティングや部署内で回覧し周知すると共に改善を行なう。意見箱を設置している。その他に、運営推進会議や面会時に意見や要望を聞き取る。相談・苦情があった場合は、毎週実施のミーティングにて報告・検討し運営に反映させている。	相談、苦情の受付体制や処理手続き、第三者委員を定め、契約時に家族に説明している。運営推進会議時、行事参加時、事業所より送付時、面会時、電話等で家族から意見や要望を聞く機会を設けている。ケアについての要望は反映している。運営に反映させるまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1度運営推進会議を実施し意見交換や提案をいただいている。また、拠点内でも会議を開催し意見交換等を行なっている。随時、職員からの意見には耳を傾けるようにしている。業務改善、行事については早期に話し合いの場を設け改善や実施に努めるようにしている。	月1回のグループホームミーティング時や朝礼時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、管理者は日常業務の中でも聞いている。職員から外出行事による勤務体制の変更についての提案があり、反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間外手当は支給されている。職員数にもよるが、有休の活用により各自の心身のリフレッシュを図れるよう配慮している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会への参加を促し、受講資格のある職員に関しては受講を勧めている。法人内研修会の参加については、必要に応じて出来る限りの参加を促し各自のスキルアップに繋げている。管理者が研修会に参加することで、職員の育成について知識・技術の習得をしている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命報告をし、資料は閲覧している。月1回の法人研修に管理者や職員は参加するように努め、熱中症、接遇、身体拘束などを学び、復命し共有している。内部研修は、月1回、防災対策、口腔ケア、ヒヤリハット、事故防止、接遇等を実施している。日常業務の中で職員間で介護技術や知識等を学び合っている。資格取得の支援をしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設サービス部会への参加等により、他の事業所との交流、意見交換を行ないサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族様にバックグラウンドを記入していただき、生活歴の把握やアセスメントを行ない、ご本人様、ご家族様の要望を伺っている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には、ケアマネ・職員が必ずご家族様・ご本人様と面談し、意向やニーズを確認した上でプランを作成。その後も、ご家族様と随時連絡を取りながら要望等確認し、より良いサービス提供に取り組んでいる。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様の要望・意向を取り入れたサービスを導入し、優先順位を考慮した対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれが出来ることへの参加を促し、一方的ではなく一緒に行なうことで共同生活での人間関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議やはあとカフェへの参加の呼びかけや、グループホーム内での行事への参加も呼びかけることで、一緒に過ごせる環境づくりに努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会や外出が出来る環境づくりに努めている。ご家族様やご友人が来所しやすいよう行事を計画し、お誘いしている。	親戚の人や孫、知人、友人の来訪がある他、年賀状や電話での交流の支援をしている。自宅周辺のドライブ、家族の協力を得ての外出、外食など馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を理解・把握し、席順に配慮したり、こまめな声掛けを行なうことで孤立することのない支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関への転移や、死亡による退去時の契約終了後の相談が必要な支援は随時対応しているが、ケースは少ない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスを毎月実施し、ひとり一人の希望や意向に沿った話し合い・検討を行っている。日々の関わりの中から希望や意向を汲み取り、カンファレンスの場で検討している。	入居時のアセスメント(私の基本情報12項目、特徴、病歴、生活歴、食事の好み、信仰、得意なこと苦手なこと、家族と本人の意向など)の活用の他、日々の関わりの中での利用者の言葉や様子、表情などを経過記録に記録して思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合いをして本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に、これまでの生活歴等の記入をしていただき、職員間での情報の共有・把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中から心身状態等を読み取り、情報の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に計画作成についての勉強会を行ない、ご本人様・ご家族様が望むケアが出来るように努めている。月1回カンファレンスを実施。計画作成担当・利用者担当が中心となり話し合い、介護計画を作成している。状況報告書等をもとに月1回のモニタリングを実施し6ヵ月毎に見直している。その他、状態変化に応じて見直し、介護計画の作成を行っている。	計画作成担当者と利用者を担当する職員を中心に月1回カンファレンスを開催し、本人や家族の意向、主治医、訪問看護師、職員等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直しをしている他、利用者の状態の変化に応じて、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、カンファレンスの場にて情報共有・検討することで、変化がみられた際はプランへ反映するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状態に差があり、全員での外出訓練は難しくなっているが、レベルに合ったグループ分けをすることで各々に合った外出先を選定・企画することに努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	重度化に伴い、全員での地域行事等への参加は難しくなっているが、柔軟に対応が出来るように職員配置等を考えていく必要がある。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1ヶ月に2度の往診により、適切な医療が受けられるよう支援している。また、専門医が必要な場合は、紹介状にてご家族様と連絡を取り適切な医療機関の受診の支援を行なっている。ご本人様・ご家族様の同意を得た上で、月2回の訪問診療を受けている。その際の情報は、職員間で共有し、またご家族様へも報告している。	協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療と週1回の訪問看護師の健康管理がある。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診結果は家族に伝えている他、職員は申し送りノートで共有している。緊急時や夜間は協力医療機関と連携して適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、訪問看護による健康チェックを実施している。気づき等あれば報告し、異変があればすぐに受診する等の体制を整えている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、各医療機関の地域連携室へ連絡をとり、情報交換に努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い、ご家族様との話し合いの場を設け看取りに関する聞き取りを行なっている。終末期に入った場合は再度確認をとりチームケアが行なえる体制を整えている。入居時に看取りに関する指針を提示・説明し聞き取りを行なっている。実際に重度化した場合はご家族様と主治医・訪問看護と話し合い、方針を共有し支援に取り組んでいる。	契約時に看取りに関する指針に基づいて事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族や主治医、訪問看護師等と話し合い、医療機関や他施設への移設を含めて、方針を共有して支援に取り組むこととしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	緊急時マニュアルの整備や緊急連絡先をファイルにし、急変時等に的確な対応が出来るようにしている。緊急時には、管理者・訪問看護に連絡、指示を仰ぎ対応している。ヒヤリハット報告書を作成し、医療安全委員会にて報告・検討している。事故防止ミーティングにて検討し再発の防止に努めている。	事例が発生した場合は、ヒヤリハット、事故報告書に記録し、その日の職員で対応策を話し合い、申し送り簿で共有している。1か月後の事故検討ミーティングで再検討して、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。急変や事故発生に備えて、法人研修(食中毒、インフルエンザ、感染症等)を受けているが、全職員が実践力を身につけるための定期的な訓練は実施していない。全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の実施	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年に2回実施している。地域の方々にも協力及び参加していただけるよう依頼している。年に2回、各事業所合同で消防訓練を実施している。	消防署の協力を得て年2回、拠点施設合同で昼間想定の通報訓練、避難誘導、消火訓練等を利用者と一緒に行っている。地域住民や消防団に参加協力を呼び掛けているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々、言葉遣いや言葉掛けについて確認し、人格を尊重し誇りやプライバシーに配慮した対応に努めている。朝礼時に接遇研修を実施し、人格の尊重やプライバシーの確保について理解を深めている。常に言葉掛けには人格の尊重等に配慮しているが、不適切だと思われる言葉掛けに対しては、その場で管理者より注意をしている。	朝礼時の接遇研修などで職員は理解して、利用者の人格を尊重し誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。気になる対応等があれば管理者が指導している他、職員間でも注意し合っている。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出・レクリエーション等は、なるべくご本人様の希望に沿うような企画発案・実施に努めている。	/		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のおおまかな流れは決まっているが、業務分担することで、入浴順や静養等は個々のペースに配慮した支援を行なっている。週3回の入浴を実施しているが、体調に応じて清拭や足浴といった対応も行なっている。	/		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、必ず蒸しタオルをお渡しし整容支援を行なっている。また外出の際には外出着に着替えられたり、月に1度、希望により出張サービスの散髪を実施している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや配膳、下膳、片付け等後利用者様と一緒にいる。法人の配食を利用している為、調理することはないが、盛り付けや食器洗いを職員と一緒にしている。外出の際には、お弁当を用意し現地にていつもとは違った環境の中で召し上がっていただいたり工夫をしている。	法人の委託事業所よりの配食を利用している。事業所で朝食の味噌汁と3食の御飯を炊いている。利用者は台拭きや盛り付け、食器洗い、下膳などできることを職員と一緒にしている。季節の行事食、誕生日食、おやつづくり(お焼き、ホットケーキなど)、年2回の弁当持参の外出、年1回の外食などの他、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量は随時確認し記録している。水分摂取量の少ない方については、寒天や食事時に水分多目のお粥にて摂取していただくようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの実施。義歯の方については週2回、必ず義歯洗浄を行なっている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に記録をしている。個々の排泄パターンを把握し対応している。その他にも、ご利用者の動きに注意しながら排泄の訴えを読み取れるように努めている。排泄チェック表をもとに個々の排泄パターンを把握し、適宜トイレ誘導を実施している。布パンツを使用している方については、こまめに声掛けを行ないその方の意思を尊重しながらトイレ誘導を実施している。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、言葉かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量1日1500mlを目安に、水分不足による便秘に注意している。下剤に頼ることなく自然排便が出来るよう、寒天や水分多目のお粥を試みている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の希望に沿った時間設定で対応している。入浴拒否がみられた場合は、無理強いせず時間を置いて再度声掛けや翌日に対応する等の支援をしている。14:00～17:00の入浴時間だが、希望があれば午前中の入浴にも対応出来るように準備をしている。体調等に配慮し、清拭や足浴の支援も行なっている。	入浴は毎日14時から17時までの間可能で、職員と会話をしながら、ゆっくり入浴できるよう支援している。入浴をしたくない人には、時間の変更や職員の交代、声かけの工夫をしている。体調によってシャワー浴や足浴、清拭などの支援をするなど個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の入眠希望に合わせて入床していただいている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	専用のファイルに薬の効能・副作用・用法・用量をまとめ確認している。薬のセットは職員2名にて実施。症状に変化があれば主治医・訪問看護に報告する。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり1人が出来ることを行なえる環境を整備し、散歩や外出、食事の準備等の家事が行なえるよう支援をしている。全員ではないが、ご自身が出来ることの中で食事の盛り付けや洗濯物を干したりたたんだり役割をもってもらい、張り合いのある1日を過ごしていただけるよう支援をしている。	洗濯物干し、洗濯物たたみ、拭き掃除、盛り付け、食器洗い、配膳、台拭き、下膳、収穫、水まき、テレビ視聴、歌を歌う、ぬり絵、ちぎり絵、3B体操、食前体操、魚釣り、イージーウォーキング、おやつづくり、うちわづくり、ボランティア(尺八、大正琴、アコーディオンの演奏、書道、お話ボランティア)との交流、季節の行事(クリスマス会、夏祭りなど)など、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望があればその都度、施設周辺の散歩等を実施している。月に1度、外出訓練を実施している。季節に合わせて花見に出掛けたり、公園の散策を実施。天候に留意しながら、敷地内にある畑の野菜の水まきに出掛けている。	周辺の散歩、買い物、道の駅、阿弥陀寺、維新公園、地域の夏祭り、馴染みの地や自宅周辺のドライブ、弁当持参の年2回の外出、年1回の事業所としての外食などの他、家族の協力を得ての外出など、戸外に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に2回のヤクルトの訪問販売や、週1回のパンの訪問販売、外出時の買い物の際、ご自身で出来る方については、商品の選択から支払いまでをしていただけるよう支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなどを出していただくよう支援している。電話については、取り継ぐことが時折ある程度。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルに季節の花を飾ったり、リビングの壁にはご自身で作られた作品を展示している。また、エレベーター周辺には、日常の様子を撮った写真を掲示している。テーブルの位置をTVが見やすい位置に設置したり、レクリエーションの際にはテーブルの位置を変更し全員が参加しやすいように工夫をしている。壁には、外出時にご利用者様に撮っていただいた写真をフォトコンテストとして掲示している。	リビングは陽ざしが差し込んで明るく、壁面には事業所の夏祭り時につくったうちわや手づくりカレンダー、習字、行事の写真が飾ってある。テレビの傍には椅子やソファを配置している他、畳コーナーもあり、利用者が思い思いに過ごせる居場所になっている。換気や温度、湿度に配慮し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席順に留意し気の合う仲間同士を同じテーブルにしたり、廊下にソファを設置し自由に使っていただいている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスについては備え付けのものもあるが、使い慣れたものを持ち込まれたり、思い出の写真を壁に貼られたり居心地の良い空間作りを行なっている。ベッド、TV、ダンス、仏壇、杖、シルバーカー等、ご自身が使い慣れた品物を持ち込まれ、ご自宅で過ごされていたときに近い環境を作ることで、安心して暮らしていただいている。	ダンス、椅子、衣裳ケース、仏壇、位牌、テレビなど使い慣れた物を持ち込み、行事の写真を飾って居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには名前を確認出来るように掲示している。廊下にはトイレまでの道順がわかるように、赤テープを貼り示すことで、1人で行くことの出来なかった方も行けるようにしている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 ハートホーム宮野グループホーム

作成日: 平成 28 年 3 月 16 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	自己評価及び外部評価の有効活用	全員で評価の意義を理解し有効に活用する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価や取り組みの再確認を実施</li> <li>・ミーティングで話し合い、項目の理解を深める</li> </ul>	12ヶ月
2	5	運営推進会議参加者の拡大	ご家族様、地域、近隣の方、ボランティアの参加を増やす。近隣の学校との交流の機会をもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご家族様への参加要請を確実に実施する</li> <li>・ボランティアの拡大</li> <li>・自治会長、民生委員へ参加の依頼を実施する</li> </ul>	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。